

目標1: 地域福祉の考え方を広げ、一人一人の行動を推進

施1 地域福祉の考え方を広げる

1 理解するための機会を作る
①出前講座をする(数値目標なし)
②講演会・研修会をする(数値目標なし)
③福推協座談会への参加を呼びかける(数値目標なし) ※「座談会」は実施されていない

2 広報する
①HPで広報する(数値目標なし)
②広報させばで広報する(市・社協合わせて年6回記事を出す)
③福推協だより発行支援をする(発行地区が増えることが目標)

3 子どもに伝える
①意識のある小中学生が増えるよう努める

施2 住民の行動を推進

1 活動場と雰囲気を作る
①HPで広報する(数値目標なし)
②広報させばで広報する(市・社協合わせて年6回記事を出す)
③デイクラブ(市)・いきいきサロン(社協)を増やす
※委員会の指摘で、ひとつに統合(サロンに一元化)するも、社協は、サロンへの関わりは限定的との整理(積極的に増やす予定はない)

2 地域活動・NPO連携
①NPOに対する福推協座談会への参加呼びかけ(数値目標なし) ※「座談会」は実施されていない。

3 人材の確保
①地域情報カルテ(地域ごとの福祉情報集)を作成する(数値目標なし)
②ボランティア研修会を実施する(数値目標なし)

★**広報する、ということ。**(広報(周知)手段を列記するのみ))

■具体的な取り組みに関する記述はない。

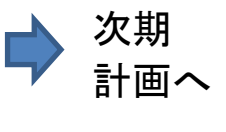
■一般的に計画は、目的とする施策実現のための「行動」を規定するもので、計画の内容としては不要と考えられる。

★**参加を呼びかける、ということ。**(周知手段を列記するのみ)

○具体的な取り組みに関する記述はない。

■一般的に計画は、目的とする施策実現のための「行動」を規定するもので、計画の内容としては不要と考えられる。

- サロン・デイクラブ(推進主体の姿勢が明確でなく、整理が必要)
- 地域情報カルテ
- ボランティア支援(福祉に関するボランティア)



次期計画へ

目標2: 課題に気づき、解決できる地域を作る

施1 地域内で連携し、情報を共有する

1 情報収集
①災害時福祉行動マニュアルの策定
②ふれあいネットワークの周知・強化(数値目標なし)

2 住民と専門機関の連携
①地域コミュニティ会議の実施
※地域コミュニティ会議の中身が整理されておらず、現実的には頓挫(三川内)結果的に、介護保険制度(地域包括支援センター)が、類似の会議を行なうので不要という結論に
②事業者向けに「地域福祉」の研修会を行う
※地域福祉で一体何をするのか不明であるため、研修できず。

施2 相談しやすい地域づくり

1 身近な相談相手を作る
①デイクラブ(市)・いきいきサロン(社協)を増やす
※委員会の指摘で、ひとつに統合(サロンに一元化)するも、社協は、サロンへの関わりは限定的との整理(積極的に増やす予定はない)
②事業者向けに「地域福祉」の研修会を行う
※地域福祉で一体何をするのか、事業者に何を求めるのか不明であるため、研修できず。
③福祉協力員を発掘する。(福祉協力員の役割・位置付けが整理・共有されていない)

2 相談窓口の充実
①身近な範囲に相談窓口が設置されることを推進(実施主体が不明)
②この、相談窓口を周知する(主体や位置付けが不明であるため、周知不能)
③総合相談窓口の開設を検討(社協に開設済)

施3 交流の場づくり

1 交流の場づくり
①デイクラブ(市)・いきいきサロン(社協)を増やす
※委員会の指摘で、ひとつに統合(サロンに一元化)するも、社協は、サロンへの関わりは限定的との整理(積極的に増やす予定はない)
②「地域のお茶の間」(空き店舗等)をつくる
※物理的・財源的に継続性のある制度の見通しがなく、頓挫

2 コミュニケーションの場の活用:(コミュニケーションを図ろうということ)
①あいさつ、声かけをする(数値目標なし)

施4 サービス利用促進

1 サービス情報の提供
①HPと広報紙で広報する(数値目標なし)

2 利用しやすいサービス:(事業者がサービスの質を高めるとのこと)
①災害時福祉行動マニュアルの策定
②事業者向けに「地域福祉」の研修会を行う
※地域福祉で一体何をするのか、事業者に何を求めるのか不明であるため、研修できず。

3 適切なサービスを受けるための支援
①成年後見・日常生活自立支援(金銭管理等)の周知(数値目標なし)
②苦情相談体制の充実(数値目標なし)

4 サービス評価体制の確立
①利用者によるサービス評価制度を検討(検討することが目標。実態として事業所への介入は不可能)
②第三者評価機関の増加(兼事業であるため、不要という結論)

施5 福推協を中心にとまとめる

1 役割の明確化:(福推協の役割を明確にするということ)
①地区地域福祉計画の実践研修をする
※実際は、猪俣除や瀬清整備など、実践研修のやり方がない
②活動内容の周知・福推協の一員であるという意識作りをする(数値目標なし)

2 活動の活性化
①福推協定例会が実施されるように支援
②福推協の役割を示した手引書の作成・周知
③地区地域福祉計画への参加を呼び掛ける(数値目標なし)

3 社協と(福推協)との連携強化
①福推協同士の情報交換の場を設ける(数値目標なし)
②福推協定例会が実施されるように支援
③地域情報カルテ(地域ごとの福祉情報集)を作成する(数値目標なし)

★**課題抽出→解決 自らこれができる地域を作る**

○地域福祉で実践すべき領域が整理されていないため、取組の方向性が見えにくい(コミュニティケア会議、事業所第三者評価)

○支援すべきターゲットが明確に整理されていないため、誰が何のために何をやるのか不明な部分がある(「福推協定例会を呼びかける」など)

○目的別なのか実施主体別なのか、体系の整理方法に一貫性を見出しにくく、計画の全体像を掴みにくい

■施策と取組の内容がマッチし、かつ、その上で実現すべき目的を、体系的に再整理する必要がある。

- そのまま、第2期計画へ引き継ぎ
- 災害時要援護者避難支援マニュアル作成・運用
 - 総合相談窓口の設置(社会福祉協議会)

- 事業の内容が整理されていなかったため、再整理後第2期計画へ引き継ぎを検討
- ふれあいネットワークと災害時要援護者の統合
 - 統合後における平常時の見守り・データベース化
 - 福祉協力員(福祉サポーター)
 - 地域のお茶の間づくり(空き店舗等利用のコミュニティスペース)

- 事業の内容が整理されておらず、廃止
- コミュニティケア会議
→会議の意図が不明確。介護の包括支援センターのケア会議がこれに代わる。
 - 事業者向け研修会
→事業者に何を求めるかの整理はなく、今後も当面は直接求めることはない。(出前講座等で、「地域福祉」そのものの周知を図ることはある)
 - 身近な範囲の相談窓口(現場の実態・人員・財源ともに非現実的)
→法的には民生委員がその役割を持ち、これを充実させることで対応
 - サービス事業所の第三者評価・利用者評価、苦情相談体制
→県・保険者等、それぞれに実施主体があり、地域福祉計画で実施する必要なし

★**福推協活動が活発に行なわれるようにすること**

○福推協とは何か、行なうべき活動の性質等やビジョンが明確でないため、実際の活動の方向付けが行ないにくくなっている。

○また、その他の社会資源(社協や民生委員)との関連性についても触れられていないので、現場での活動がやりづらい。

■福推協の位置づけの整理を行なったうえで、関係者の合意を得、その上で、地域独自の自発的活動が推進されるというプロセスを計画に盛り込んでいく必要がある。

目標3: 地域福祉活動への取り組み

施1 地区地域福祉活動の実践

1 地区地域福祉活動を周知する
①福推協だより発行支援をする(発行地区が増えることが目標)

2 地区地域福祉計画の実践
①福推協座談会への参加を呼びかける(数値目標なし) ※「座談会」は実施されていない。

3 地区地域福祉計画の検証と見直し
①進捗状況を検証する。(数値目標なし。地区計画への関わりが整理されておらず、未実施)
②地区計画を見直す(数値目標なし。地区計画への関わりが整理されておらず、未実施)

★**その他、次期計画に必要な重要事項**

○社会福祉協議会の位置づけが明確でない(議会も指摘)

○地域福祉計画と、実際の保健福祉部の動きが連動していない。(現実の動きは、場当たりの)

○地域福祉を実行する組織体制(役割)が明確でなく、計画に対する責任の所在があいまい。

■以上のような、計画実行に当たっての基本的な考え方の整理を行なったうえで、次期計画を策定する必要がある。